

平成 26 年 6 月 15 日現在

機関番号：34415

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22710241

研究課題名(和文) 雑誌にみる「近代」 ヒンディー語女性雑誌におけるインド近代表象

研究課題名(英文) 'Modernity' in the women's Hindi magazines during the modern period of India

研究代表者

小松 久恵 (Komatsu, Hisae)

追手門学院大学・国際学部・講師

研究者番号：80552306

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円、(間接経費) 660,000円

研究成果の概要(和文)：近代北インド、ヒンディー語圏で流通した女性のための雑誌のうち主要な3誌Griha Lakshmi, Stri Darpan, Chandを中心として取り上げ、これらの雑誌に現れる女性の自己表象を読者投稿と寄稿記事をもとに多数検証、女性が出自を問わず社会規範に強く縛られていることを指摘した。さらに各紙の編集記を比較することで、3誌のそれぞれ異なる性格を明らかにし、同時期の女性雑誌の多様性を紹介した。

研究成果の概要(英文)：This research considered how the self of women were represented in the women's magazines published in the Hindi spoken area during the period of modern India.

I took the cases of three famous magazines such as Grihalakshmi, Stri Darpan and Chand. Based on the intensive analysis of women's writings like autobiographies and reader's columns, I pointed out in regardless of their own class/caste, women were bonded by strict social norms of that time. Additionally this study also discussed the diversity existing in women's magazines.

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：近代女性雑誌 ヒンディー文学 北インド 表象

1. 研究開始当初の背景

近年、我が国で初めてインド各言語の専門家が集まり、共通する軸を設定して各言語による文学史を編纂、一つの大きな流れを検証するという壮大な試みが始まった。もっとも、文学史を研究する際に主に取り上げられるのは主要作家の代表的な作品であり、雑誌が分析の中心となることはない。しかし文学史の主流から外れてはいるものの、雑誌は時代の特色 世論や社会風俗、大衆文化などを非常に明瞭に映し出すものであり、インド文学史、ならびにインド近代史を重層的に検証するにあたって、その資料価値を軽視することはできない。

インドにおける雑誌文化は 19 世紀中葉から始まり、特に北インドでは 20 世紀の 20 年代に入ってから広く発展した。印刷技術や交通網の発達によって、雑誌が地域を超えて人々を結ぶ重要な媒体となると、社会改革運動、ならびに独立運動の指導者たちは、活動の一環として雑誌を編集発行し、そこで其々の理念を主張して民衆に活動への参加と理解を呼びかけた。女性の地位向上と女子教育の普及は、改革者たちが重要視した問題の一つであり、それらを目標に掲げた雑誌が 1870 年代から発行され始める。

女性向けヒンディー語雑誌は、著名なヒンディー文学者の編集によって 1874 年に登場した。わずか数年で廃刊となった同誌 *Balabodhini* は女性のための娯楽的な読み物というよりはむしろ、ヒンドゥー女性として守るべき規律を繰り返した啓蒙的なものであった。その後も女子教育理念普及を理念とした女性雑誌の発行は続いたが、いずれも男性による「男性優位的」な立場からの指導的な内容であり、女性による女性のための雑誌が現れるには 20 世紀に入るのを待たねばならなかった。20 世紀に入ると女性の編集や執筆者による、文字通り女性のための雑誌が相次いで発行された。中でもヒンディー語圏で中心的な役割を負った 3 誌 *Grihalakshmi*, *Stri Darpan*, *Chand* は、女性たちに初めて語る場と声を与え、彼女たちが「ヒンディー公共圏」に接触する契機となった。

我が国におけるヒンディー語の女性雑誌研究は、これまで全く行われてこなかった。応募者は博士論文において、上記の 3 誌を取り上げ、雑誌に現れる女性の自己表象を読者投稿欄と寄稿記事を元に多数検証し、女性がその帰属社会を問わず社会規範に強く縛られていることを指摘した。しかし入手しえた雑誌が *Chand* を中心とした 100 号程度と限られたものであったため、十分な分析ができただとは言えない。また、女性雑誌を扱った研究自体ごく限られており、近年出版された *Bharatiya Patrakarita Kosh*(インド雑誌辞典)2007 においても、女性雑誌の紹介は充実しているとはいえない。さらに先行研究に記載されている複数の図書館を訪問したところ、雑誌の多くが数年の間に紛失していることが

判明した。適切に保管されず、貴重な資料が破損、紛失していくことを防ぐため、早急に複写あるいは購入することで、資料の保存に努めたいと考えた。

2. 研究の目的

本研究の具体的な目的は以下の 3 点である。

(1) 資料収集ならびに目録作成

初のヒンディー語女性雑誌 *Balabodhini* が発行された 1847 年から、20 世紀前半の北インドで最大流通を誇った *Chand* が廃刊になる 1940 年代を中心に、当時発行されたヒンディー語雑誌を収集、整理、検証する。特にこれまで研究してきた *Grihalakshmi*, *Stri Darpan*, *Chand* の 3 誌の収集をより充実させ、同時に『インド雑誌辞典』を参考にしつつ新たな雑誌収集に着手する。さらに収集した雑誌の書誌データを作成し、各々の特色まで網羅する充実した目録作成を目指す。

(2) 「国家」「国民」という意識の解明

独立運動の高まりとともに、女性雑誌や文芸誌でも政治に関する記事が大部分を占めるようになっていった。英国支配からの独立を目指す中で、共同体としての「祖国」「母国」に対する意識が強まったといえよう。そこで寄稿された記事ならびに雑誌構成に現れる「インド」を取り上げ、寄稿者が作り出そうとする共同体の姿を明らかにしたい。さらに寄稿者のバックグラウンドに留意し、各々が描く共同体に見られるずれを取り上げる。

(3) 自己表象検証

インドに自伝文化が広く普及し始めたのは、19 世紀末からである。近代教育を通じて英文学や西洋哲学、思想に触れたことで、人々は「個」や「自我」という意識に目覚め、それが自伝文学の流行へと結びついた。女性雑誌においては、1920 年代後半から読者投稿欄が充実し、「私」を語る多様な声が見られる。それらの言説の中で、女性たちは自己をどのように認識し、表現したのか。語り手が自己ならびに他者をどのように設定したのかに留意しつつ、彼女らの自己表象を検証する。

3. 研究の方法

本研究は 2010~2013 年度の 4 年計画で行った。主な方法は、(1) 国内外における調査活動 (2) 調査データの集積と分析 (3) 国内外での学会参加・発表である。

(1) 調査活動

インド国内の図書館にて資料調査を行い、目録作成に着手する。具体的には以下の主要図書館にて所蔵調査を行う。

- ・デリー
国立ネルー記念図書館、マールワリー図書館
- ・ベナレス

ベナレスヒンドゥー大学、ヒンディー普及協会 (Nagri Pracharini Sabha) 付属図書館

インド国外の図書館で所蔵調査を行う。

- ・英国
イギリス大英図書館 (British Library)
ロンドン大学 (School of Oriental And African Studies, University of London)、
ロンドン郊外コリンデルの新聞図書館
- ・日本
東京外国語大学付属図書館

(2) データの集積と分析

上述の図書館での資料収集の結果をふまえて、当該時期に出版された雑誌の書誌ならびに所蔵場所を表にまとめる作業を行う。

申請者の主な関心の一つである「読者投稿」欄に注目し、複数雑誌を網羅的に検証、広くデータを集積しながら読者の語りを分析する。

特定のコミュニティを分析対象として設定し、そのコミュニティが同時期の複数雑誌においてどのように表象されているのか、雑誌記事を網羅的に収集する。それらがいかに表象され、それがインド近代社会においてどのような意味を持つのかを分析することで、近代インドにおける自己と他者の区分、ひいては「国家」「国民」意識を明らかにする。

(3) 成果報告

上記の成果の一部を、国内外の学会や研究会で口頭発表する。

まず雑誌毎、のちに総合データベースを作成し、インターネットを利用して書誌の公開を目指す。

上記の成果の一部を論文にまとめて、国内外の学会誌に寄稿する。

4. 研究成果

(1) 雑誌の所蔵確認

インド国内においては、首都デリーと近代ヒンディー文学の中心地であったベナレスの二都市の主要図書館にて所蔵確認を行った。そのうち正確な所蔵リストが存在するのは一館のみ、雑誌保管状態も良好とは言いがたいことが判明された。そのため一冊ずつ状態を確認するには膨大な時間が要された。

インド国内において最も設備が整っているのはデリーにある国立ネルー記念図書館であり、マイクロフィルム化された Chand 誌の重要箇所 (1920 年代後半から 30 年代前半の読者投稿欄、ならびに大きな話題となったマールワリー特集号) の複写を入手した。同市のマールワリー図書館では、Chand 誌の

現物が 1920 年代前半と 1940 年代前半の数カ月分所蔵されており、比較的保存状態も良好であった。

ベナレス市のベナレス・ヒンドゥー大学ならびにヒンディー普及協会 (Nagri Pracharini Sabha) 付属図書館では、想像以上に雑誌現物が保管されていることが判明した。特に Madhuri, Stri Darpan, Sudha の三誌がよく揃っており、その保管場所やアクセス方法が判明したのは大きな収穫であった。しかし両図書館ともに保管状態は劣悪であり、資料が散逸並びに崩壊の一途をたどっていることが明白となった。所蔵リストも存在しておらず、早急な作業が必要だということが痛感された。インド国内の図書館はデリー以外では大半の資料がほぼ未整理のまま散逸している。複写は非常に困難であり、デジタルカメラでの撮影が作業の中心となった。

(2) 女性の自己表象

近代ヒンディー語圏で流通した女性のための雑誌のうち、主要 3 誌 Grihalakshmi, Stri Darpan, Chand に現れる女性の自己表象を読者投稿欄と寄稿記事をもとに検証し、女性とその帰属社会を問わず社会規範に強く縛られていたことを指摘した。また各紙の編集記を比較することで 3 誌の異なる性格を明らかにし、同時期の女性雑誌の多様性を明らかにした。

(3) 共同体イメージの創造

1920 年代半ばの最大流通誌 Chand の特集号をもとに、「マールワリー」商人コミュニティが移住先である北インドの人々の目にどのように映ったのかを分析、その特集号が生み出された背景を明らかにした。同時に、特集号に対する世論・批判やマールワリー自身による激しい反論をあわせて考察することで、移住先で構築された他者イメージとマールワリー自身が作り上げようとした自己イメージとの齟齬、コミュニティとしての集団アイデンティティ構築の問題を考察した。そこから先進的なコミュニティとしてのイメージを創造・構築しようとする共同体の努力を読みとることができた。

(4) 今後の展望

本研究では、インド国内外の複数図書館における所蔵調査によって、貴重な雑誌資料の所在・状態を一部ではあるが確認することができた。この情報をもとに今後、より効率的かつ広範囲での調査を計画している。また 4 年間の調査で収集したデータの整理、集積と分析作業はまだ完全に終わっていないので、引き続き基盤研究 C「ヒンディー語雑誌におけるインド近代表象とその歴史的変容」において研究の継続、発展をめざしデータベース化や分析結果の公表に努めたい。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

小松久恵「質実剛健 or 享楽豪奢
1920-30年代北インドにおけるナショナリズムとマールワリー・イメージをめぐる一考察」『現代インド』No.3、査読有、2013、131-151

Komatsu, Hisae “Tell me what love is; a study of ‘LOVE’ in early twentieth century Indian women’s narratives”, In Mochizuki ed. *India, Russia, China; Comparative Studies on Eurasian Culture and Society* SRC, Hokkaido University Comparative Studies on Regional Powers No.11, 査読無, 2012, 131-139.

〔学会発表〕(計 2 件)

Komatsu Hisae “Gandian or Babylonian? A study of Marwari Images in 1920s-30s North India.” British Association for South Asian Studies, held at SOAS, London, 2012 April 12-14.

小松久恵「質実剛健 or 享楽豪奢 1920年代北インドにおけるマールワリー・イメージをめぐる一考察」日本南アジア学会、2011年10月2日(大阪大学)

〔図書〕(計 2 件)

小松久恵「女が「私」を描くとき」『シリーズ現代インド』第5巻 粟屋利江編、東京大学出版、印刷中

小松久恵「アメリカ人が描いた20世紀初めインドの輪郭 Mother India(1927)を読む」『コンタクト・ゾーンの人文学』4巻 田中雅一編、晃洋書房、2013年、83-100.

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

小松 久恵 (Hisae KOMATSU)
追手門学院大学・国際教養学部・講師

研究者番号：80552306